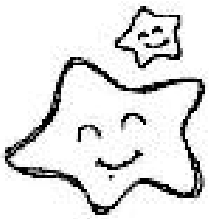
QSK(にぬふぁぶし) 1997 年 9 月 18 日 第三種郵便物承認　通巻 8425 号 2024 年 11 月 2 日 発行　(1)
（毎月 1.2.3.4.5.6.7 がつく日）

QSK にぬふぁぶし

No.333

子（ね）の方向の星（北極星）



『家族大会2024』のご報告

10月18日（金）、与那原町上の森かなちホールにて、沖福連・精神保健福祉研修会『家族大会2024』が開催されました。

今年の大会では、山形県立保健医療大学の安保寛明氏を講師に招き、『SOSの出し方教育』をテーマに講演をしていただいています。

特にコロナ禍以降、全国的に子どもや若者の自殺が増加するなか、山形県では県の自殺対策計画のなかで「すべての公立小中高校でSOS教育を実施すること」を明記して、取り組みを始めました。その結果、山形県における昨年の20歳未満の自殺者数は、47都道府県中、数・率ともに最小の1名に減らすことができたということです。

紙風船やドラえもん、大きなかぶの昔話など、親しみやすい例えをちりばめた説明は楽しく具体的で、講演後のアンケートでも「理解しやすい！」という声が多く寄せられました。「脳の疲労回復に重要」という話もあった“知的好奇心”にあふれた時間はあっという間で、講演のあとは会場にいたみなさんの顔がいつにも増して明るく晴れやかだったことが印象的でした。

今回、大会の冒頭では、参加者としてご来場くださっていた参議院議員・高良鉄美氏からもご挨拶をいただき、沖福連の取り組みに対して心強いエールを受け取ることができました。

また、本大会の模様は、講演の文字起こしも含めて報告集としてまとめていく予定です。希望される方には無料でお配りしますので、どうぞお楽しみに！

『令和6年度沖縄市ハートフル福祉フェア』開催のお知らせ

沖縄市では、毎年11月～12月にかけて実施している『沖縄市ハートフル福祉フェア』を、今年も以下の日程で開催いたします。『沖縄市ハートフル福祉フェア』は、障害者基本法に基づく「障害者週間」及び沖縄県における「精神保健福祉普及月間」の趣旨に基づき、障がい者福祉、精神保健福祉の普及啓発、障がい者の自立、社会参加の促進等を目的としています。私たち、沖縄市障がい者基幹相談支援センターも障がい福祉課とともに事務局として、開催に向けて準備をしている最中です。

『令和 6 年度沖縄市ハートフル福祉フェア』
11 月 18 日（月）～12 月 6 日（金）

（展示会）11月18日（月）～11月22日（金） 8:30～17:00　場所：沖縄市役所1階市民ロビー
（物産展）11月25日（月）～12月6日（金）10:00～15:00　場所：沖縄市役所1階市民ロビー

（講演会）11月20日（水）　14:00～16:00
テーマ「誰もがなりえる身近な病（仮）」
場所：沖縄市役所地下2階大ホール
講師：山城 涼子氏(沖縄県精神保健福祉士協会副会長)
はぴわんねくすと の皆様

沖縄市内の福祉サービス事業所（児・者）、市内精神科病院デイケア、家族会、地域活動支援センターなど、今年度は41ヵ所が参加予定となっています。

パネルでの事業所紹介や日々の活動紹介、作品展示、また物産展では、Ａ型・Ｂ型の就労継続支援事業所を中心に、制作した商品の販売を行ないます。

年々、商品のクオリティーの進化に驚き、利用者さんとお客さんのやり取りする様子や、各事業所同士で情報交換をしている様子など見ると、事務局としても気持ちがあたたかくなって嬉しくなります。

精神保健福祉普及講演会では、「誰もがなりえる身近な病（仮）」をテーマに沖縄県精神保健福祉士協会副会長の山城涼子氏と、当事者の方々で組織して活動している「はぴわんねくすと」の皆さんをお招きして、お話していただく予定となっております。

QSK(にぬふぁぶし) 1997 年 9 月 18 日 第三種郵便物承認　通巻 8425 号 2024 年 11 月 2 日 発行　(3)
（毎月 1.2.3.4.5.6.7 がつく日）

パパイヤの国から来ました

増山 幸司

パパイヤ／フルーツパパイヤ問題というのがある。

栃木にいた頃、ぼくにとってパパイヤといえばフルーツとしてのパパイヤのことだった。南国の香りがして、甘い、ちょっと非日常感のある高級果物だ。

沖縄に住み始めたばかりのある日、近所の道の駅でパパイヤを見かけて、意外な値段の安さから喜んで買って帰ったのだが、家で切ってみたら思っていたのとぜんぜん違ったので途方に暮れた（野菜としてのパパイヤを知らなかったので）。

それとは反対に、たいていの沖縄の人たちと、黄色く熟したフルーツパパイヤとのあいだには、ぎくしゃくとした微妙な関係性がある。対面したときに、親しい知人と気まずい場所で出会ったかのようなぎこちない反応がある。カットして皿に盛られたフルーツパパイヤを前にして、ある人は苦笑いし、ある人は眉をひそめ、ある人はよくよく匂いをかぎ、ある人は見るなり「いいん！」と拒絶の声を発する。

野菜パパイヤとフルーツパパイヤは種類としての違いがあるわけではなく、たんに熟し具合で区別されるだけである。炒め物としては、むしろ年じゅうパパイヤを食べている沖縄の人たちなので、その苦手意識はよけい不思議に思えるのだが、考えてみれば食文化というのはこうして多様性を保っているのかも知れない。出会い方、そして長年の関係性の問題だ。

インターネットのウィキペディア（百科事典）を見てみたら、「21世紀になり、日本で野菜としての食べ方が知られ、需要が生まれると、亜熱帯性ではない栃木県などでも生産、出荷が行なわれるようになった。」と書いていた。栃木県民は全国のうちでも、パパイヤに対して特別な情熱を持っているかも知れない。

今年、てるしのワークセンターの敷地内でパパイヤが実をつけて、ひと夏ずっと採(と)らずにいたらすっかり黄色く熟してしまった。切ってみんなで味見をしたが、なかにはこの日、生まれて初めてフルーツパパイヤを食べたという人もいた。

反応はやはり、おおむねかんばしくない。（というか、ぶっちゃけ散々だ）

ぼくもぼくでなんだかよくわからない話だが、フルーツパパイヤを食べると栃木の味を思い出す。だから、これいっそ栃木県の果物と言ってもいいんじゃないかな。

ゆいジョブ！「おしごと発見フェア」
3年間の成果と今後の課題 ～前編～

喜納 政哉（ゆいジョブ！実行委員）

「おしごと発見フェア」は、障がい者の就職支援を目的として、2022年に始まり、毎年開催されているイベントです。

ヤマト福祉財団や「ゆいジョブ実行委員会」の協力により、地域全体で障がい者の就労をサポートする仕組みづくりを目指し、障がい者と企業が直接交流し、雇用に向けた理解を深める場として成長してきました。

障がいのある人が自分に合った職場を見つけ、企業が障がい者雇用に前向きに取り組むための機会として、このイベントの役割はますます重要になっています。

これまでの振り返りと、私たちの考える今後の課題や展望について、前後編の2回に分けてご紹介していきたいと思います。

1．イベントの成長と来場者実績

2022年に開催された初回の「おしごと発見フェア」には、約30社の企業が参加し、約350名が来場しました。企業説明会や「おしごとチャレンジ体験会」を通して、障がい者が実際の職場でどのように働けるかを理解し、将来的な就労に向けて具体的な知識を得る機会を提供。企業側も、障がい者雇用に関する課題を認識し、取り組みを進める一助となりました。

2023年には、台風による日程変更にもかかわらず、参加企業数と来場者数が増え、約500名が参加。沖縄タイムス社やイオン琉球、沖縄ヤマト運輸などの大手企業が出展し、企業と障がい者が直接触れ合い、雇用に向けた具体的なステップを考える場となりました。

今年2024年には、来場者数が600名を超え、イベントはさらに拡大。体験コーナーのレイアウトを見直し、障がいのある人がよりスムーズに業務体験を行えるよう配慮して、車椅子の参加者もなるべくストレスなく体験できる環境を整えました。出展企業にも、障がい者の業

務能力を直接見てもらう機会を提供し、雇用に向けた理解をさらに深めていただくことができました。

2. 障がい者の一般就労に向けた課題

障がい者の一般就労を進める上で、まだいくつかの課題があります。

まず、企業が障がい者を受け入れる体制を整えることが必要です。

企業の中には、障がい者雇用に前向きでありながらも、具体的な支援や職場環境の整備が不十分な場合があります。こうした企業に対して、障がい者の特性に応じたサポートを提供するための研修や情報提供が不可欠です。

また、障がい者自身も働くことに対して不安を感じることが少なくありません。

「自分にできるだろうか」、「職場にうまく適応できるだろうか」といった不安は、特に初めて就職を目指す障がい者にとって大きなハードルとなります。

この不安を和らげるために、実際の業務体験を通じて「自分にもできる」という感覚を得ることが重要です。

さらに、障がい者の就労を長期的に支援するためには、企業だけでなく、周囲のサポートも不可欠です。職場内の業務内容の調整やコミュニケーションの工夫を通じて、職場全体が障がい者を支える体制を整えることが、長期的な雇用の維持に役立ちます。

（次回、後編に続きます!）

【寄付金／賛助会員加入のお願い】

沖福連の活動は、みなさまからの賛助会費やご寄付によって支えられております。
今後とも、あたたかいご支援・ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

賛助会年会費　　個人１口：２千円　／　団体・法人１口：１万円

琉球銀行：南風原支店　普通口座 229887
ゆうちょ：02020-0-37037　（加入者名：公益社団法人沖縄県精神保健福祉会連合会）

「私宅監置」小屋の保存について、県議会に陳情を行ないました

9月25日（水）、沖福連の関係者などでつくる「私宅監置遺構保存会」は、沖縄本島内に現存する私宅監置遺構の保存についての公的支援および、かつての私宅監置制度が精神障がい者にもたらした人権侵害、人生被害等の調査・検証を求めて、県議会に陳情を行ないました。

私宅監置は、日本において1900年制定の精神病者監護法に基づいて実施され、1950年、精神衛生法の制定とともに撤廃されましたが、米軍統治下の沖縄では1972年の日本復帰まで継続された措置です。

隔離のため使われていた建物はここ数年でも、経年による損傷等がますます深刻になってきています。鉄の扉は錆や腐食が進み、また母屋も、屋根や壁などの一部が崩れて風雨にさらされる状態となっています。

陳情ではこうした荒廃を一日も早く食い止めて、歴史を伝える貴重な遺産として保存するために、沖縄県としての公的な協力を求めました。

◎編　集　後　記◎

家族大会には、今年も多くの方にご参加いただいて、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。事務局の自分たちは、当日はほとんど大会の進行運営にかかりきりになってしまい、せっかく会場でお久しぶりの顔を見かけても挨拶もできなかったり、来てくれていたことさえ後で知ったり、そういうことのひとつひとつが実は心残りにもなっています。受付名簿の名前や記録の写真を後で見て、しみじみとするのです。関心を持って、時間を割いてご参加いただき、本当にありがとうございました。（増山）

編集：公益社団法人 沖縄県精神保健福祉会連合会
会長　山田 圭吾
〒901-1104
沖縄県島尻郡南風原町字宮平206-1
電話098-889-4011　FAX098-888-5655
E-mail　terushino@castle.ocn.ne.jp

発行：九州障害者定期刊行物協会
〒812-0068
福岡市東区社領1丁目12番4号
電話092-753-9722　FAX092-753-9723
定価：10円（会費に含まれる）